

## 「“新小田高感覚”の運営」の跡を訪ねてみました

### 学年幹事会で決めた「城内高校卒業生の参加勧誘」

私たち小田高 11 期会では、学年幹事会(2016/3/18)で“新小田高感覚”の運営を決定し、小田高との合併によって同窓会を失う形になった「城内高校卒業生の参加勧誘」を進めてきました。「学校が統合され“新生・小田高”になっているのに、同窓会合併の機運が現れてこないの、城内高校卒業の同窓生が参加されないのは残念である」とともに「たとえ高校はちがっていても出身中学が一緒ならば小田高 11 期会内での交友関係が広がり、新小田原高校同窓会が一層楽しいものとなる」と確信したからです。そして早速の 2016 年のOHCD(小田高ホームカミングデー)11期主催講演会には、城内高校同窓会「窓梅会」で会長代行をされている内田圭江副会長や 11 期代表幹事の鈴木栄子さんをはじめ受講者数合計 44 名中の計 9 名の城内高校 OG にご参加いただきました。しかし何といてもこの「城内高校卒業生の参加勧誘」の動きに最も強力な支援を送ってくださったのが、ご自身が「城内高校卒業生の参加を受け入れてくださるのは小田高 11 期会だけなんですもの」と喜んでおられた故根岸俊郎兄(3 組)の奥方の幸子さん(城内高 13 期生)でした。

### まずは小田高 11 期生間の交流関係拡大に貢献

右の 2016 年OHCD(小田高ホームカミングデー)11期主催講演会の時に撮った写真をご覧ください。故根岸俊郎(3 組)夫人の幸子さんは小田高の教師をしていた頃に安藤彬兄(8 組・写真左側)と同僚であったことが分かり、そのことから、これまでは交流のなかった根岸俊郎兄(写真右側)と安藤彬兄の間に“同窓生新発見の場”ができあがったわけです。ご自身たちが小田高・城内高カップルであったことの他に、このように城内高校卒業生が介することによって小田高 11 期生間の交流関係が広がることを実感されて「城内高校卒業生の参加勧誘」に本腰を入れられたのかもしれない。



### “思いがけない再会”が連発

根岸幸子さんからの誘いを受けて、正真正銘“新”小田原高校 11 期生の瀬戸松子さんが小田高 11 期会の場に現れた時には私自身がビックリしました。なんと、大学時代の大河内一男ゼミナールでお世話になった 1 学年先輩の瀬戸勇さんの奥方だと分かったからです。2016 年のOHCD11 期主催講演会に窓梅会 11 期期代表幹事の鈴木栄子さんに同行されてきたご夫君の鈴木英男さん(小田高 8 期生)とめぐり合い「お陰さまで久しくお会いできなかった大学の先輩に会うことができました」と大喜びされていた下赤隆信兄(2 組)と似たケースですが、私も大学卒業以来ご無沙汰のしっぱあしであった小田高の先輩の奥方であった瀬戸松子さんとの思いがけない出会いに感動するとともに前年に亡くなられたというご主人・瀬戸勇先輩に対する追悼の意を表しました。そして何より、後に以下の小田高 11 期生ホームページ(Web11)に瀬戸松子さんが「栄さんには、家も近かったせいか、幼なじみのような感情がありました」と書かれた故栄憲道兄(6 組)にとっては、誰よりも瀬戸松子さんとの思いがけない再会だったに違いありません。

「栄憲道さんを偲んで」 城内高校 瀬戸(旧姓:相田)松子

[http://www.odako11.net/Happyyou/happyyou\\_seto\\_matuko/happyyou\\_seto\\_matuko.html](http://www.odako11.net/Happyyou/happyyou_seto_matuko/happyyou_seto_matuko.html)

### 「俳句、川柳、短歌、初心者塾」創設に拍車

そして、俳句結社「鷹」に入って俳句に勤しまれている瀬戸松子さんは、自らは和歌を嗜む栄憲道兄、瀬戸勇さんを山北

中学、小田高、東大を通じての先輩として仰ぎ自らは俳句に親しんでいる瀬戸章嗣兄、そして、川柳を吟ずる月村博兄の五七五仲間が全て6組のメンバーであることから、当然のごとく6組の一員に加えられ、「小田高11期生の“個”展」にご自分で発行された句集「榎の月」をはじめとする俳句作品を出展して下さるようになりました。そして更に、榮憲道兄が病身を押して進められていた「俳句、川柳、短歌、初心者塾」の出版に当たっては俳句指南番を務めていただくまでとなりました。私は小田高11期常任幹事役から降りていたのでやりにくかったのですが、新型コロナウイルス禍のために「小田高11期会の“個”展」が中止と決定されていた中で、“本年行わずしていつ展示すべきや”と判断して、「俳句、川柳、短歌、初心者塾」作品応募に参加し、「瀬戸松子さんから素晴らしいアドバイスを受けた」嬉しそうに話していた下赤隆信さんと三木邦之さん(ともに2組・学年幹事)に世話役になっていただいて「小田高11期会の自主“個”展」を立ち上げたのでした。

## 小田高11期会活動終結による不都合の程をお詫びして

このようにして、瀬戸松子さんと根岸幸子さんのご尽力によって「新小田高感覚」の運営が進展し、城内高卒勢の参加が盛り上がってきて、「小田高11期会の自主“個”展」では、6名の城内高卒勢だけで、「自主“個”展」をご覧になった後、宝安寺内の一室で、“個”展のために快く「茶のまある」を貸与し続けて来てくれた故望月郁文兄(3組)を囲んで宝安寺の成し遂げている福祉事業について講話を受けるという小間もありました。しかし、小田高11期会も2023/5に行われた「小田高11期生の傘寿を祝う会」をもって解散となり、「俳句、川柳、短歌、初心者塾」も榮憲道兄の遺志を継ぐ者がなく発足したまま停止という状態になってしまいました。小田高11期会活動に参加してきてくださった城内高卒勢はどんな思いでおられるのだろうかと心遣いをしている矢先にうけたのが、こゆるぎ座の「唐人お吉」講演の話であり、ご無沙汰のお詫びかたがた瀬戸松子さんと根岸幸子さんのお二人を招待させていただいた次第です。

## 城内小学校跡地に立って思うこと

右の写真は、観劇後、城内小学校跡地の二の丸広場の脇で撮った写真です(左が瀬戸松子さんと右が根岸幸子さん)。二の丸広場は「和みの会」のラジオ体操会場になっていて、かつては、幸子さんとのカップルで参加していた故根岸俊郎と私(3組)、「小田高11期会の自主“個”展」で精一杯助力してくれていた故市川陸雄兄(6組)と中澤秀夫兄(7組)の小田高11期勢の4人がメンバーとして加わっていました。久々ここを訪れた瀬戸松子さんは、「この近くにあった私たちの城内高校もなくなっちゃったけど城内小学校もなくなっちゃったのね」と往時を懐かしそうに振り返っておられました。



## Web11を“新小田原高校”同窓生の交信の場に

瀬戸松子さんのご都合で、その後に予定していた小田原城から箱根口までの「知っていそうで知らない小田高エリアめぐり」とその後の気楽な懇親会は実施できぬまま終わってしまいましたが、お二人にはこの小田高11期会ホームページ(Web11)に「“新小田原高校”同窓会に関する雑感」について寄稿するようお願いしておきました。小田高11期会が解散となった今、このWeb11だけが“新小田原高校”同窓生の情報交流の場となってしまいました。末尾ながら、このSNS(Seto Negishi Sasaki)連携記事掲載を機に、Web11が新小田原高校”同窓生の交信の場となるようご推進くださるよう小田高11期生各位にお願いいたします。